

### 卓越大学院とは・・・

平成30年度より、文部科学省が「世界の学術研究を牽引する研究者」、「イノベーションをリードする企業人」、「新たな知の社会実装を主導する起業家」、「国内外のパブリックセクターで政策立案をリードする人材」等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材を育成するとともに、人材育成・交流及び新たな共同研究が持続的に展開される拠点を生み出し、大学院全体の改革を推進することを目的として実施する取り組みです。

申請数54件の中から長崎大学のプログラムが採択されました

設置形態	申請数		採択数	
	大学数	件数	大学数	件数
国立	28	44	12	14
公立	3	3	0	0
私立	7	7	1	1
合計	38	54	13	15

### プログラム概要

本プログラムは、グローバルヘルス領域で**世界最高峰**に位置する**ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 (LSHTM)**との緊密かつ有機的なパートナーシップの下、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス(TMGH)研究科を中核母体とした**先進的な学位プログラム**を構築し、**“世界を動かし地球規模の健康課題を解決できる真に卓越したグローバルヘルス人材”**を育成します。

具体的な人材像は、地球規模で生じている健康課題を現場レベルで深く理解し、その解決に向けて技術や理論を構築できる教育及び研究能力を有すると共に、学術的知見をグローバルな政策立案・実行等に結び付ける能力を兼ね備えた**実践的・社会的リーダー**を養成します。



### プログラムの特色

長崎大学が持つ、**他にはない大きな3つの強み**を活かした教育プログラムを構築します。



#### 1 歴史と伝統に基づいた感染症教育研究環境

**熱帯医学・グローバルヘルス研究科**

日本で初めて熱帯医学・グローバルヘルスの教育拠点(2015年設置)

**熱帯医学研究所 (海外感染症研究拠点)**

日本を代表する感染症熱帯医学研究拠点

**医歯薬学総合研究科 新興感染症病態制御学専攻**

リーディング大学院 「熱帯病・新興感染症グローバルリーダー育成プログラム」 (21世紀COE, グローバルCOE)

**BSL-4施設**

エボラウイルスなどBSL-4病原体の取り扱いが可能な卓越した研究環境 (2021年以降設置予定)

#### 2 日本のグローバルヘルス中核拠点

**感染症共同研究拠点**

感染症に対する世界の安全・安心の向上に資することを目的とした感染症研究コンソーシアムを結成

**国立国際医療研究センターとの連携**

- ・ NCGM教員の研究指導参画
- ・ サテライトキャンパス
- ・ SDGs研究センターの設置

**省庁間を越えた政府機関との連携**

**民間企業やNPO/NGOとのネットワーク**

#### 3 LSHTMとの戦略的パートナーシップ

## PARTNERSHIP

熱帯医学に関する国内唯一の「**熱帯医学研究所**」を核として、大学全体で感染症研究を推進してきた**75年の蓄積に基づく卓越した教育・研究基盤**が整っています。

大学、官公庁、企業等を超えたグローバルヘルスの教育研究の中核拠点として、他が比肩することができない**卓越した国内ネットワーク**が整備されています。

グローバルヘルス分野において世界最高峰に位置するLSHTMの教員や研究者と**共同で研究プロジェクトを実施**し、その中で**直に指導を受ける**ことが可能となります。

本プログラム詳細については長崎大学卓越大学院プログラムHP (<http://www.wise.nagasaki-u.ac.jp/>) をご覧ください。なお、本プログラムに関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

【問い合わせ先】 生命医科学域・研究所事務部研究所等支援課 学務 (TMGH事務室)  
E-mail: [tmgh\\_jimu@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:tmgh_jimu@ml.nagasaki-u.ac.jp)

# 卓越大学院 (WISE)プログラム受講に関するQ&A

## Q1 「グローバルヘルス」とは何ですか？

### 【回答】

21世紀になり経済、産業や流通のグローバル化が進み、自然・社会環境に関する諸問題も地球規模で考えなければならない時代になりました。とりわけ、環境の変化に影響される感染症やメンタルヘルス、生活習慣病などの疾病対策には、時に国や地域の境界を越えた「グローバルヘルス」という新たな概念が必要となります。

国際社会が協調して解決に取り組むグローバルヘルスをめぐる課題は、熱帯医学、国際保健といった特定分野のみならず、教育学、経済学、社会学、工学、水産学、環境科学等きわめて複雑な要因が関与しており、学際的・分野横断的アプローチが不可欠です。

## Q2 プログラムを受講したいのですが、どのような手続きが必要ですか？

### 【回答】

本プログラムは学内より選抜され、受講許可された方のみ受講することができます。手続きの流れは下記のとおりです。

①受講申請書提出 → ②書類審査、面接審査（面接審査は博士のみ） →  
→③受講可否決定 → ④受講許可通知 → ⑤プログラム受講開始

WISE募集要項



受講希望者は、本プログラムHP (<http://www.wise.nagasaki-u.ac.jp/application>) 又は右記QRコードより受講申請様式をダウンロードし、指定の期日までに所属研究科の学務担当窓口まで提出ください。

## Q3 プログラムに参加すると、どのようなことができますか？

### 【回答】

本プログラムは5年一貫を基本としていますが、プログラムに参加することができるタイミングは、①修士・博士前期課程1年次、②博士後期課程1年次及び③4年制博士課程(1年次・2年次)です。

プログラムの1・2年目(修士・博士前期)は、TMGH研究科のモジュールをベースにグローバルヘルスの基礎を学びながら博士後期課程を完遂できる実力を養成します。プログラムの3～5年目は、リサーチワーク(研究)が中心となり、世界トップレベルの教員・研究者等で構成された研究指導チームによる課題解決型の研究指導を受けることができます。また、連携先機関と本プログラム教員が合同で実施する国際共同研究に参画することも可能です。

## Q4 プログラムの修了要件と修了後の学位について教えてください。

### 【回答】

所属研究科の修了要件に加え、本プログラムにて指定するカリキュラムをこなす必要があります。プログラム修了後は、本学が発行する学位記に本プログラムを修了した旨が附記されます。

## Q5 所属研究科は変更となるのですか？

### 【回答】

所属研究科の変更はありません。ご自分の研究科に引き続き所属しながら、本プログラムの受講をすることとなります。

## Q6 プログラム受講生への経済支援はありますか？

【回答】 本プログラムでは、プログラムに選抜された博士後期課程・博士課程の学生のうち優秀な者に対して、「教育研究支援経費」を支給する制度を設けています。

卓越大学院学生\*：毎月20万円

卓越大学院候補学生：毎月10万円

※「教育研究支援経費」は、学生の経済的な負担を軽減し、博士課程における教育研究に専念できる環境を提供するための家計基準に拠らない給付型の支援経費です。

\*卓越大学院学生として選抜された学生の指導チームに対し、年額200万円の研究指導経費が配分されます。なお、支援内容が変更されることもありますので、卓越大学院学生及び候補生として選抜された学生には、本プログラムHPを随時確認することを推奨します。